

宇宙戦略基金第三期について (全体概要)

内閣府
宇宙開発戦略推進事務局
令和 8 年 2 月

宇宙戦略基金

- 我が国として民間企業・大学等が複数年度にわたって大胆に研究開発に取り組めるよう、新たな基金を創設し、民間企業・大学等による先端技術開発、技術実証、商業化を強力に支援。

令和5年度補正予算3,000億円
(文科省1,500億円、経産省1,260億円、総務省240億円)
令和6年度補正予算3,000億円
(文科省1,550億円、経産省1,000億円、総務省450億円)
令和7年度補正予算2,000億円
(文科省950億円、経産省740億円、総務省310億円)

第三期

- 速やかに総額 1 兆円規模の支援を行うことを目指すとともに、民間投資や宇宙実証の加速、地域やスタートアップ等の国際競争力につながる特色ある技術の獲得・活用や産業の集積等の観点からスタートアップを含む民間企業や大学等の技術開発への支援を強化・加速する。
- 加えて、政府によるアンカーテナンシーを確保し、民間企業の事業展開の好循環を実現。

『強い経済』を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定）

宇宙戦略基金による速やかな総額 1 兆円規模の支援を通じて、宇宙空間における輸送、衛星及び探査の分野において先端技術開発、技術実証及び商業化を支援する。

<本制度のスキーム>

内閣府 経済産業省
文部科学省 総務省

基金造成

宇宙航空
研究開発機構
JAXA

委託・
補助金交付

民間企業、スタートアップ、
大学・国研等

輸送

支援分野
(3Areas)

衛星等

探査等

【事業全体の目標（3Goals）】

- 宇宙関連市場の拡大（2030年代早期に4兆円⇒8兆円等）
宇宙関連市場の開拓や市場での競争力強化を目指した技術開発を支援
- 宇宙を利用した地球規模・社会課題解決への貢献
社会的利益の創出等を目指した技術開発を支援
- 宇宙における知の探究活動の深化・基盤技術力の強化
革新的な将来技術の創出等に繋がる研究開発を支援

基本方針及び実施方針

- 事業全体の制度設計については「基本方針」、各技術開発テーマの目標、内容について「実施方針」においてその具体的事項を示す。
- 本事業の技術開発テーマの設定にあたっては宇宙技術戦略（「宇宙輸送」「衛星」「宇宙科学・探査」「分野共通技術」）で抽出された技術項目を参照する。
- その上で、JAXA主体ではなく、民間企業・大学等が主体となることで、より効果的な技術開発の推進が図られるテーマを、本事業の技術開発テーマとして設定する。

令和7年度補正予算分
（第三期）を新規策定

基本方針

一部改定

- 目的・概要
- 目標、技術開発の方向性
- 技術開発テーマの設定や目標の考え方
- 技術開発の実施方法（支援対象、対象経費、支援期間、支援の形態、支援の種類、技術開発課題選定の観点、技術開発実施体制、知的財産等の取扱い、政府調達の実施等）
- 技術開発マネジメント（運営体制、ステージゲート評価等、技術開発成果の発信等）
- 経済安全保障上の配慮

実施方針

- 技術開発テーマ名 ※以下、技術開発テーマ毎に定める。
- テーマの目標（出口目標、成果目標）
- 技術開発実施内容
- 技術開発実施体制（対象事業機関に対する要件等）
- 支援の方法（支援期間、支援規模、支援件数、自己負担の考え方等）
- 審査・評価の観点（金融機関の評価等含む）
- 技術開発マネジメント（ステージゲート評価の考え方等）

文部科学省

（宇宙開発利用分野における先端・基盤技術開発等の推進）

経済産業省

（事業化に向けた研究開発の支援を通じた宇宙関連産業の振興）

総務省

（宇宙分野における情報通信技術の開発・利用促進）

内閣府

（事業全体の制度設計、宇宙技術戦略のローリング等）

- 基本方針は、10年間の事業期間にわたる制度設計を定めたものであるが、政府内外での議論・政策動向やJAXAの進捗報告等も踏まえ、以下の事項を改定。

【補助対象分類の修正（5－5．支援の種類）】

- ✓ 引き続き、多様な形態による挑戦を維持しつつ、基金事業の成果最大化を図る。あわせて、採択者自身による投資を一層促進するとともに、他の技術開発支援事業との整理等を踏まえ、補助対象の区分（補助率）を変更する（大企業子会社は「大企業」区分として整理）。

注）時系列として第一期・第二期は技術開発テーマ公募が先であり、既に契約済でもあるため、当該テーマへの遡及はしない。

【国際市場獲得を見据えた連携枠組み（5－7．技術開発実施体制）】

- ✓ 2025年9月にJAXAが公表した民間企業による国際市場獲得に向けた国際共同事業に対する支援枠組み（Co-funded事業推進枠組み）を明記。

【JAXA全体の本事業との関係（6．技術開発マネジメント）】

- ✓ 宇宙政策委員会におけるこれまでのご指摘や、JAXA外部の有識者から構成される宇宙戦略基金事業・ステアリングボードからの提言等も踏まえて、事業の性質に十分留意しつつ、JAXA全体（人員・リソース等）と宇宙戦略基金の関係について提示。

【研究セキュリティに関する動向（8．安全保障・経済安全保障）】

- ✓ 「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書（令和7年12月）」が公表されたことを踏まえ、適宜参照。

注）宇宙戦略基金事業は、現状(2/24時点)、特定研究開発プログラムには指定されていないが、対応方針を検討中。

【その他】

- ✓ 表現の適正化や時点更新等を行う。

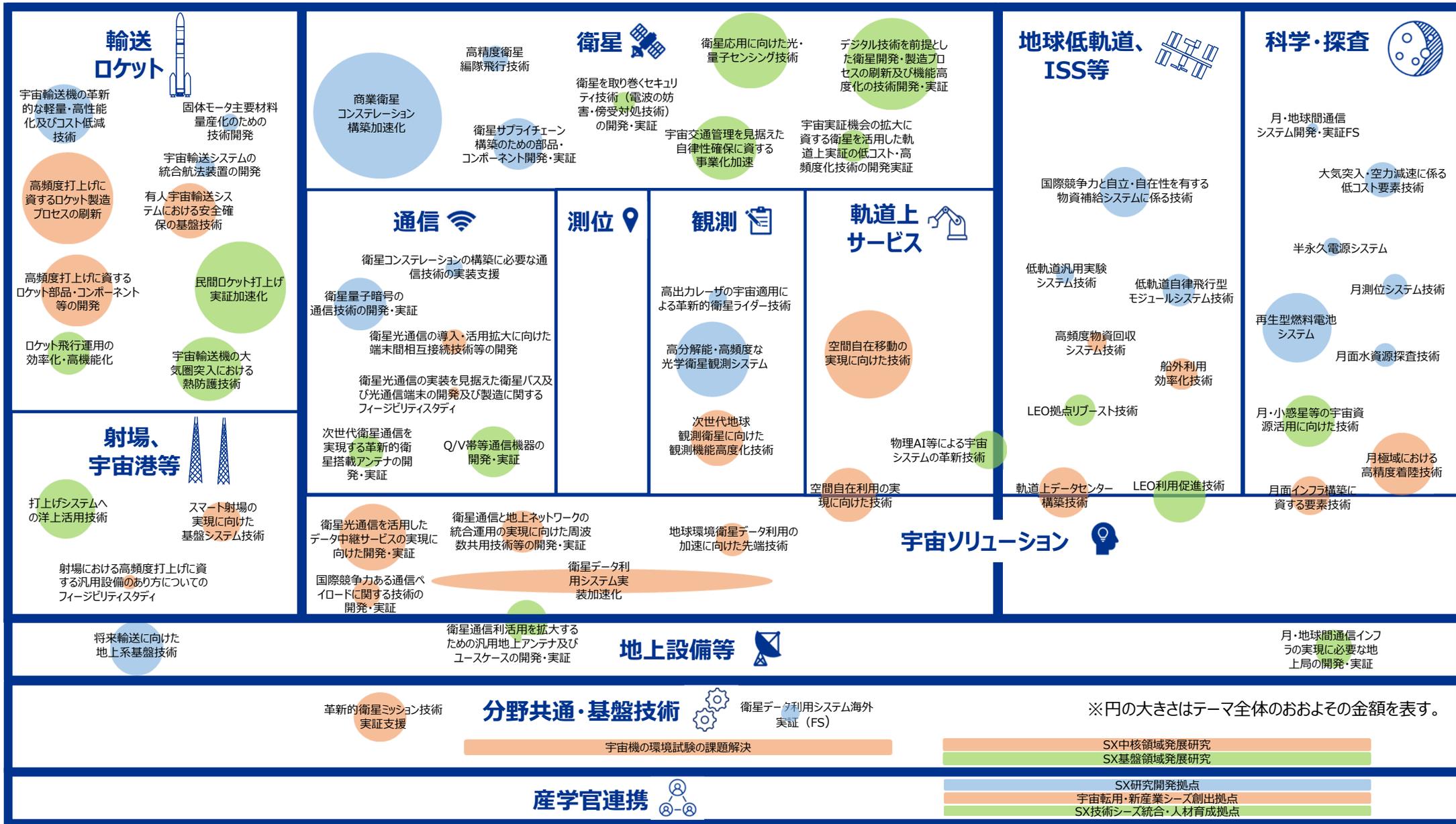
第一～三期の比較

	第一期	第二期	第三期（案）
予算	3,000億円	3,000億円	2,000億円
うち輸送	360億円程度	630億円程度	480億円程度
うち衛星等	1,650億円程度	1,340億円程度	960億円程度
うち探査等	740億円程度	500億円程度	320億円程度
うち分野共通	160億円程度	440億円程度	240億円程度
設定テーマ数	22テーマ	24テーマ	19テーマ
採択課題数	50件程度	140件程度（予定）	80件程度（予定）
考え方	既に計画や資金ニーズが顕在化しており、速やかに着手すべき技術開発についてテーマ化	宇宙分野への関与・裾野拡大が特に期待できる新たなテーマを設定	他分野技術との連携・統合を通じた宇宙技術の実証・社会実装・事業化の加速についてテーマを設定
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の取組加速 本格的な商業衛星コンステレーション構築に向けた支援や衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネントの開発・実証 等 ● 各分野における技術の民間移転の加速 高分解能・高頻度な光学衛星システムの構築や、ステーションへの物資補給システムに係る技術 等 ● 我が国の「強み」技術の強化 衛星量子暗号の通信技術の開発・実証やロケットの固体モータ材料に関する量産化技術開発 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たなサービスの創出 衛星光通信を活用した通信サービス、軌道上サービス、衛星データ（地球観測・測位等）を利活用した新サービスの創出 等 ● 非宇宙分野の参入促進・裾野拡大 非宇宙分野のプレーヤの参入促進に向けた地域の拠点形成や分野共通技術開発の推進、宇宙技術の迅速な試験技術の開発 等 ● 高頻度打上げに向けた取組加速 ロケット製造プロセスや部品・コンポーネントのコスト低減、量産化、射場ビジネスの成立性を高める技術開発 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他分野技術との連携・融合による宇宙分野での実証 衛星通信を取り巻くセキュリティ技術の実証、光・量子センシング技術の衛星応用、物理AIによる宇宙システムの革新技术 等 ● 宇宙技術の統合による実証の加速 衛星設計・製造・試験プロセスの標準・効率・自動化、宇宙交通管理のデータ収集・サービス開発、月・地球間通信技術の開発・実証 等 ● 輸送技術の実証加速・商業化支援 民間ロケット打上げ実証加速化、打上げプロセスの高機能・効率化、打上げシステムへの洋上活用技術 等

宇宙戦略基金による支援の全体イメージ（令和8年2月）

- 宇宙技術戦略にも位置付けられているキー技術のうち、第三期については、特に**通信分野、輸送・射場分野、軌道上サービス分野、地球低軌道分野等での新たな投資を加速。**

● : 第三期 ● : 第二期 ● : 第一期



支援規模別のマッピング（第三期）（案）

輸送

衛星等

探査等

※円の大きさはテーマ全体のおおよその金額を表す。

大

1採択案件あたりの支援総額

小

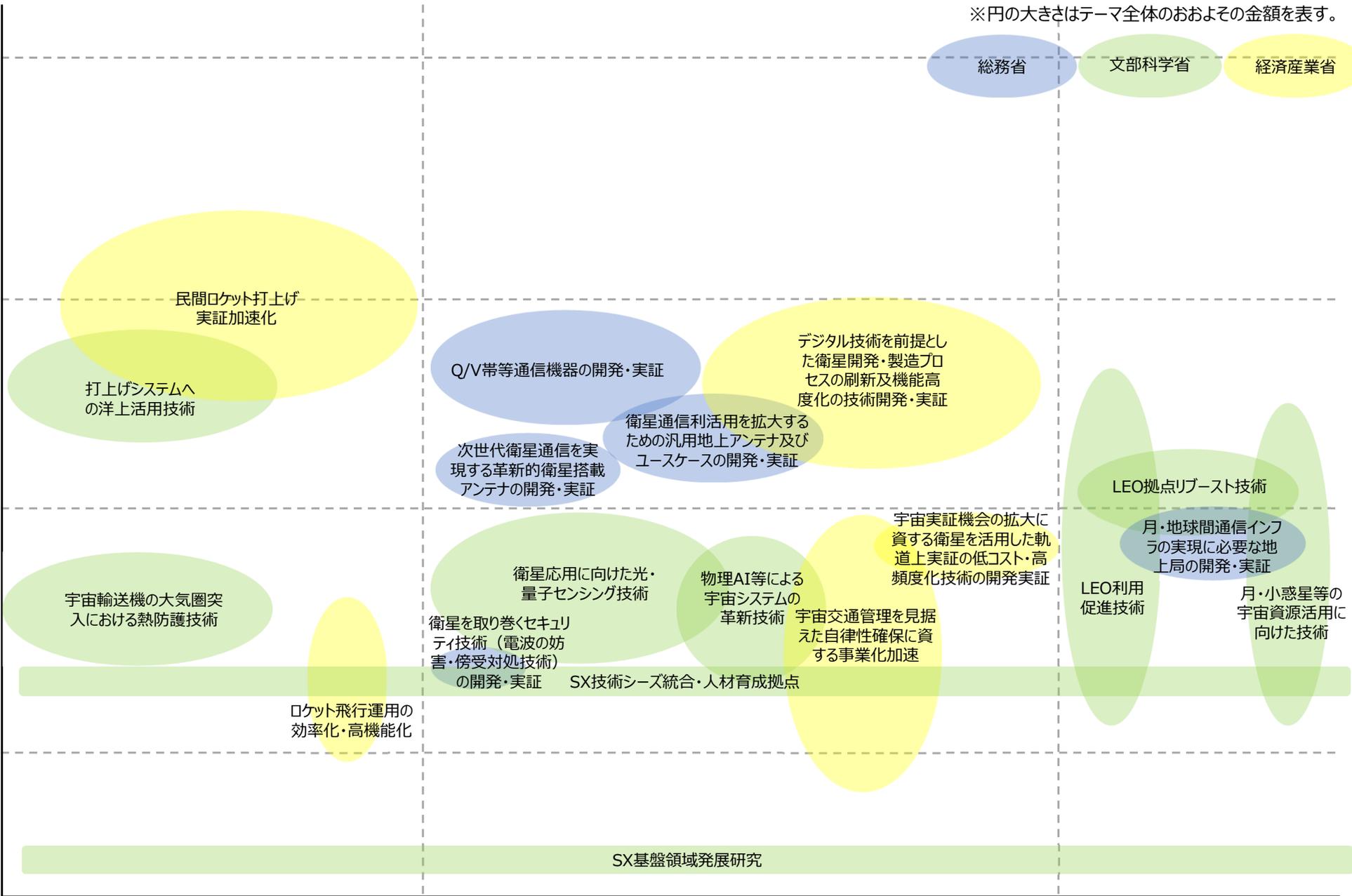
150億円

100億円

50億円

10億円

総務省 文部科学省 経済産業省



技術成熟度別のマッピング（第三期）（案）

輸送

衛星等

探査等

高

完了TRL

低

民間ロケット打上げ
実証加速化
【A補助】

ロケット飛行運用の
効率化・高機能化
【D委託、A補助、B補助】

打上げシステムへの洋上活用技術
【B補助、C補助】

宇宙輸送機の大気圏再突入に
おける熱防護技術
【C補助】

衛星を取り巻くセキュリティ技術
(電波の妨害・傍受対処技
術)の開発・実証
衛星通信利活用を拡
大するための汎用地上
アンテナ及びユースケース
の開発・実証
【A補助、B補助】

Q/V帯等通信機
器の開発・実証
【B補助】

次世代衛星通信を実現す
る革新的衛星搭載アンテナ
の開発・実証
【B補助】

宇宙実証機会の拡大に
資する衛星を活用した軌
道上実証の低コスト・高
頻度化技術の開発実証
【A補助】

衛星応用に向けた
光・量子センシング技術
【B補助、C補助】

SX基盤領域発展研究【C補助】

SX技術シーズ統合・人材育成拠点【C委託】

宇宙交通管理を見据えた自律性
確保に資する事業化加速
【B→A補助、D委託】

デジタル技術を前提とした衛星
開発・製造プロセスの刷新及び
機能高度化の技術開発・実証
【D委託、B→A補助】

物理AI等による宇宙
システムの革新技術
【C補助】

月・地球間通信インフラの実現
に必要な地上局の開発・実証
【A補助】

月・小惑星等の宇宙資源
活用に向けた技術
【B補助、C補助】

LEO利用促進技術
【B補助、C補助】

LEO拠点リブースト技術
【B補助、C補助】

【実施方針(第三期)】 技術開発テーマ案 (全19テーマ)

輸送

【文】打上げシステムへの洋上活用技術 (90億円程度)

- 将来の多様な宇宙輸送に対応するための技術基盤の構築と洋上環境における打上げシステム実証の加速を目的として、打上げシステムへ適用可能な洋上活用に係る技術を開発する。

【文】宇宙輸送機の大気圏再突入における熱防護技術 (95億円程度)

- 大気圏再突入を伴う宇宙輸送機体の実現に係るキー技術である低コスト性、再使用性及び再整備性に優れた新たな熱防護部品及び熱防護コアシステムを開発する。

【経】民間ロケット打上げ実証加速化 (240億円程度)

- 国際競争力のある輸送サービスの早期事業化に向け、事業化初期段階にある民間ロケットの複数回の打上げを通じた、打上げサービス拡充に向けたシステム機能や、信頼性向上に向けた設計・製造工程の改良といった開発・実証を行う



宇宙輸送機の大気圏再突入時のイメージ

【経】ロケット飛行運用の効率化・高機能化 (50億円程度)

- ロケット打上げにおける飛行解析・飛行安全解析の効率化と、ロケット追跡の可能範囲拡大・低コスト化を通じ、ロケット飛行運用の効率化・高機能化を目指す。

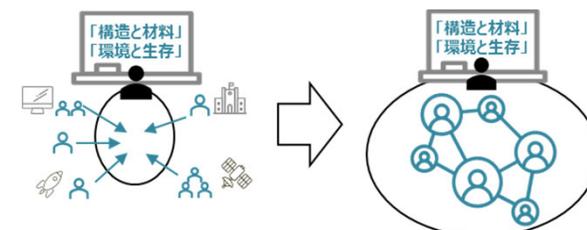
分野共通

【文】SX技術シーズ統合・人材育成拠点 (110億円程度)

- 大学等の研究者を中核とした体制により、宇宙分野の継続的な発展に向けて、関連する様々なコミュニティの連携を深化させ、特色ある技術等、革新的な成果を創出するとともに、当該体制を中核とした国際競争力のある宇宙クラスターの形成を目指す。

【文】SX基盤領域発展研究 (100億円程度)

- 将来の宇宙開発利用におけるボトルネックの解消等に向けて設定された領域(「構造と材料」及び「環境と生存」)の下、多様な民間企業・大学等のプレーヤーが参画し、当該領域に係る挑戦的・萌芽的な要素技術を開発する。



SX基盤領域発展研究の事業イメージ (文部科学省作成)

探査等

月面開発・深宇宙探査

【総】月・地球間通信インフラの実現に必要な地上局の開発・実証 (50億円程度)

- 月・地球間の大容量通信に対応した地上局を開発することで、月面活動の円滑化・自律性の確保と市場獲得を図る。

【文】月・小惑星等の宇宙資源活用に向けた技術 (95億円程度)

- 任意の小惑星等への高頻度の即応的接近・採掘等を可能とする革新的な技術を開発する。また、月面サンプルリターンに必要な要素技術を開発する。

地球低軌道利用、ISS等

【文】LEO利用促進技術 (112億円程度)

- 地球低軌道利用を拡大・促進するために、宇宙実験に向けた研究・装置開発による宇宙実証の加速や低軌道実験シミュレーション等の利用促進のための技術を開発する。

【文】LEO拠点リブースト技術 (60億円程度)

- 商業宇宙ステーションへ提供可能なリブースト機能及びこれを実現するために必要な自律的制御に関する技術を開発する。



スラスト噴射の様子 (露プログレス補給船)

【実施方針(第三期)】 技術開発テーマ案 (全19テーマ)

衛星等

衛星共通・軌道上サービス等

【総】衛星を取り巻くセキュリティ技術（電波の妨害・傍受対処技術）の開発・実証（25億円程度）

- 衛星通信の妨害・傍受といった脅威に対処可能な通信機器等の開発を通じて、拡大する衛星セキュリティ市場のニーズの獲得を図る。

脅威への対処のイメージ
(総務省作成)

ジャミング、
スプーフィング



傍受

【文】衛星応用に向けた光・量子センシング技術（150億円程度）

- 従来型センサより2桁以上の性能の（制度、感度、ダイナミックレンジ等）向上が期待できる光・量子センシング技術の衛星応用に向けた検討、研究開発、実証を加速させる技術を開発する。

【文】物理AI等による宇宙システムの革新技术（80億円程度）

- 先進的なAIの軌道上サービスへの応用に向けて、AIモデルとハードウェアを開発する。また、企業・大学等がAIを用いて広く実験・実証のできる共用の軌道上モジュールを開発する。

【経】デジタル技術を前提とした衛星開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化の技術開発・実証（230億円程度）

- 複数種の衛星間におけるアーキテクチャ・IF・モデルの標準化や、デジタル技術を活用した開発プロセスの標準化及び費用・工数低減に資する技術開発等を行い、衛星開発・製造プロセスの効率化に取り組む。

【経】宇宙実証機会の拡大に資する衛星を活用した軌道上実証の低コスト・高頻度化技術の開発実証（48億円程度）

- 軌道上実証サービスの実証プロセスの効率化・迅速化に資する技術開発等を実施し、衛星による低コストかつ高頻度な軌道上サービスを実現する。

【経】宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速（150億円程度）

- 商用SSA（宇宙状況把握）データ基盤と、衛星統合運用基盤及び衛星運用を支えるサイバーセキュリティに係る基盤の開発・実装支援を通じ、STM（宇宙交通管理）を見据えた自律性の確保を目指す。



STM（宇宙交通管理）及び
SSA（宇宙状況把握）のイメージ
(Microsoft Copilotにより生成)

通信・観測

【総】衛星通信利活用を拡大するための汎用地上アンテナの開発（70億円程度）

- 複数サービスに対応可能なアンテナの開発や車体との一体化技術の確立により、自動運転等に衛星通信の活用シーンを広げ、宇宙関連市場の拡大を促進する。

【総】Q/V帯等通信機器の開発・実証（93億円程度）

- 衛星打上げの増加に伴い周波数資源が逼迫する中、より多くの通信需要に対応すべく、世界に先駆けてQ/V帯等の先端通信機器を開発する。

【総】次世代衛星通信を実現する革新的衛星搭載アンテナの開発・実証（63億円程度）

- 衛星と地上間の通信を支える衛星搭載アンテナの高機能化を実現する、革新的な衛星搭載用アンテナを開発する。

※この他、宇宙戦略基金第二期・「SX中核領域発展研究」における打上げ・軌道上実証費用としての共通環境整備費（30億円程度）及び本基金事業の管理費（58億円程度）を含む。

宇宙戦略基金事業 ステアリングボード 提言への対応

今後に向けての提言（宇宙戦略基金事業の経過報告及び今後に向けての提言【R8.1.21】）

対応の方向性

①宇宙市場の創出と獲得を通じた成果最大化

<①-1 重点テーマ／機関への戦略的な投資のあり方>

<①-2 政府調達による市場創出及び成長支援強化>

<①-3 海外宇宙市場の獲得及び民間資金導入の促進>

- 宇宙政策委員会において、J A X A から適宜進捗報告を受けるとともに、第三期のテーマ設定にあたっては、各省の有識者会議を開催し、実施方針案を検討。
- 今後、第一期を中心に本格的に始まるステージゲート評価に基づき、評価状況に応じた、成果最大化に向けて追加原資を要する場合には、基金全体の柔軟性を活用しつつ、追加原資の調整について関係府省で検討を推進する。
- 第三期の技術開発テーマについては、官側によるアンカーテナントを想定したテーマを設定し始める等、政府調達の目途も見据えて運営しており、今後も引き続き、一定の留意をしつつ、事業運営をしていく。

（参考）基本方針において、本事業の民間企業等の技術開発成果については、一定のプロセスを経て、随意契約による研究開発成果の調達等が行える規定を設けている。

- 海外、宇宙市場の獲得・民間資金導入の促進については、現在政府全体での「危機管理投資」「成長投資」に向けた検討・議論が進行中であり、提言を踏まえ、引き続き検討を継続していく。

②基金事業の成果最大化に向けて果たすべき J A X A の役割

- ステアリングボードからの提言や、宇宙政策委員会でのご指摘を踏まえ、基本方針を改定。今後、J A X A 全体の人員・リソースと宇宙戦略基金事業の関わり方については、関係府省・J A X A において具体的な運用について議論を継続していく。